

OKoTaC 通信

オコタック

2018年2月28日発行

NO.39

(改訂版)



春節期も頑張りました！

高校生による地下鉄ボランティア

P 2-3 NPO活動報告

『“絵本を通して多文化に出会う”場づくり』セミナー
ピアにほんご『サポーター交流会』

P 4 地域の子ども支援教室から㊹

日本語適応教室『さくら広場』（吹田市）

P 5 Air Mail メキシコ便り㊺

『グアテマラ、ホンジュラス（3）』

P 6 多文化な子ども@大阪のニュース

『Wai Wai!トーク Part 2』

P 7 特別寄稿

『日本語指導の必要な児童生徒の現状（後篇）』

P 8 イベント情報

会員継続および新規登録のお願い





おおさか子ども多文化センター 活動報告

『“絵本を通して多文化に出会う”場づくり』セミナー

(大阪府社会福祉基金地域福祉振興助成金事業・大阪市立中央図書館共催)

近年、学校や保育園はもちろん、地域の子育て支援施設などでも、外国から来た親子に出会う機会が増えています。日本の子どもたちが、そんな彼らの文化にふれることができるように、また外国ルーツの子どもたちが母語のおはなしを楽しめるように。——オコタックでは昨年度までの5年間、図書館を会場に「多文化にふれる えほんのひろば」を開催してきましたが、今年度はさらに、そのような“絵本で多文化に出会う”機会をもっと地域のいろいろな場所で増やしていけたらと考え、12月10日(日)、大阪市立中央図書館にて標記セミナーを実施しました。当日は府内全域から、保育園や小学校の先生、図書館関係者、子ども子育てプラザの職員など、計63名の参加がありました。



中国の絵本を、中国語と日本語で交互に聞いてみました

前半はまず「多言語おはなし会」体験として、5つの言語で、さまざまなスタイルの読み聞かせを味わってもらいました。一口に“外国語を取り入れた読み聞かせ”といっても、外国語だけで読む、日本語と外国語で交互に読むなど、いろいろなかたちが可能です。また外国の作品の日本語版、二言語併記の絵本など、作品によって楽しみ方もさまざまです。今回は、これまでの「えほんのひろば」で試みてきた中から、「外国語版が出版されている日本の絵本を、両言語で読む」「みんながよく知っているおはなしを、そのまま外国語だけで聞いてみる」など5つのパターンを選んで、外国人スタッフに各々の母語を使って実際に読んでもらいました。その後それぞれのパター

ンに適したその他のおすすめ作品や、それらの入手方法なども紹介していくと、参加者は熱心にメモを取りながら聞いていました。中でも、「その言語で書かれた絵本がなくても、日本の絵本を使って外国語で一緒に楽しむ例」は好評で、「身近にある絵本で、気軽に、外国から来た人と交流できることがわかった」という感想も多く寄せられました。

後半のグループトークでは、各班に外国人スタッフも交え、今後自分たちの現場でどのように絵本を活用できるか等を話し合ってもらいました。参加者からは、「こんな感じなら私たちの地域でもできるかも」「子育てプラザに遊びに来るあの外国人親子にも、こんど絵本を読んでもらおう」という声がたくさん上がっていました。その他にも、多言語電子絵本『ええぞ、カルロス』のDVDを鑑賞したり、展示された図書館所蔵の外国語絵本を手にとって見たりする中で、外国ルーツの人と一緒に何かの活動をつくるイメージについて、参加者同士で情報交換する姿も見られました。

オコタックでは、このセミナーを一つのきっかけとして今後各地で、絵本とともにある多文化な場が、少しずつ広がっていくことを期待しています。実際に、この日参加されていた他市の図書館関係者から後日、こんど自分たちの地域でも多言語の絵本イベントを計画することになったという嬉しい連絡をいただきました。そういった中で、外国にルーツをもつ子どもや保護者が母語を活かして活躍できる機会がますます増えていくことを、心から願っています。(AN)

★ ★ ★

多言語おはなし会に参加して ——

(おはなし会スタッフ 南雲陽子)

私は6年前の「多文化にふれる えほんのひろば」の初回から、多言語おはなし会の進行役をさせていただいています。参加者の皆さんに外国にルーツをもつ読み手の方の紹介をし、その国の挨拶を覚えてもらったり、紹介する絵本のあらすじを先に簡単に伝えたりする役目です。今回読んでくれた絵本の中には、子どもたちも大好きな妖怪や、その国の市場の様子が描かれたものもありました。「ブラジルの妖怪、面白いですよ。皆さんも何かご存知ですか?」「中国の市場ってこんなものが売られているんですね」と、会場とのやり取りも交え、話を進めて行くことで話題も広がり、絵本を楽しみながらお互いの文化へ関心が高まっているのを感じました。

ネパール語の読み手さんには、日本語の野菜クイズの本を用いネパール語で問いかけてもらいました。野菜の影絵

を見て当てるものですが、その国の本がなくても楽しく読んでいくことができました。小さな息子さんも登場し、嬉しそうにネパール語で野菜の名前を教えてくださいました。そして皆の前で堂々と母語で絵本を読むお母さんの姿を、隣でとても誇らしげに眺めていたのが印象に残っています。

長年、司会進行をする中で感じたのは、読み手の皆さんが母語を大切にし、母国の絵本にとっても強い思いを持っているということです。皆さん絵本にでてくるその国ならではの食べ物やお祭りなどの文化、昔から伝わる伝説や風習などを、嬉しそうに紹介してくれました。また、素朴な絵柄や内容の中に子どもたちへの大切な教えが盛り込まれていたり、途中で詩や子守唄がでてくるものもあり、絵本の奥深さを感じました。逆に、日本の絵本を多言語でリレー読みしていく試みの『はじめてのおつかい』などは、皆さん気持ちを込めて読んでくれました。小さな子どもの頑張りやハラハラしながら見守る親の気持ちは万国共通なんだなあ、あらためて感じることができました。



多言語の絵本を見ながら「何ができるかな？」

読み手さんの中には、民族衣装や民族の帽子で登場してくれた方もいました。また、人前で話すことに慣れていない方もいましたが、最初恥ずかしそうで緊張ぎみだった読み手さんたちが、読んでいく中でどんどんイキイキとした表情に変わり、終わった時は晴れやかな笑顔を見せていた姿に、自分の母語で表現する大切さや素晴らしさを感じました。参加者の皆さんも、たとえ言葉は分からなくても、絵をじっくり見て、耳を澄ましてその言語を聞くことで、内容を想像しながら楽しんでくれたように思います。大好きで身近な絵本が、外国にルーツを持つ人と当たり前にも暮らす、その手助けになる！ そんな発見に心躍る多言語おはなし会に参加でき、感謝の気持ちでいっぱいです。

..... ピアにほんご『サポーター交流会』を実施しました



オコタックが府教委から受託している大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご)には現在、19の支援言語、202名の方が教育サポーターとして登録されています。サポーター活動は個人で活動するケースが多いので、他のサポーターと顔を合わせたり、話し合ったりする機会はありません。そこで、そのようなサポーターのスキルアップ、情報交換のために毎年1回、交流会を開催しています。今年度は12月25日(月)、大阪府公館(元知事公舎)で行いました。参加者(講師、スタッフ、府教委)は23名でした。

前半は、府教委・高等学校課生徒指導部の挨拶に始まり、大阪府立学校在日外国人教育研究会(府立外教)事務局長・米谷修さん(府立成美高校教諭)に、「府立高校における外国人生徒の現状と教育サポート活動」について話をしてもらいました。特に、米谷先生ご自身の多文化理解の原点になったお話や在留資格についての話(家族滞在の外国籍生徒の場合、就職や奨学金の受給において壁があること)、外国人生徒の歴史認識と日本の学校で学ぶ歴史認識との違い、そして、マイクロアグレッション(注)の事例を紹介しながらの、見えにくい差別についての話が印象的でした。また、教育サポーター活動は外国にルーツをもつ生徒の支援にとっても役立っていると謝意が伝えられ、サポーターも活動にやりがいを持つことができましたと思います。

後半はグループに分かれて、サポート活動報告から抜粋した3件の事例について、参加者同士で話し合いました。また、交流会終了後は希望者17名が懇親会を、近くのネパール料理店で行いました。ネパールカレーに舌鼓を打ちながら、ワイワイガヤガヤ、教育サポーターを始めたきっかけや、各々の趣味、活動経験などの情報交換をしました。

参加者からのアンケートには、参加者の活動内容や意見交流ができて大変有意義だった、先生も生徒も多様なので、一人ひとりをよく見ることが大切であると思った、年1回ではなく、複数回このような情報交換、学習の場である交流会を開催してほしいとありました。(Y.M)

※(注)発言している方には相手を傷つけたり差別したりする意図はないが、その言葉の中に異なる人種、異なる文化・習慣を持つ人に対する無理解、偏見、差別が含まれている、「ささいな」「見えにくい」攻撃



日本語適応教室 『さくら広場』 (吹田市)



日本語適応教室「さくら広場」は、吹田市内の幼稚園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象とした吹田市教育委員会が主催する日本語教室で、平成16年度から始まり、今年で14年目になります。吹田市の日本語指導を必要とする園児・児童・生徒はおよそ20名で、市内に点在しています。そのため「さくら広場」のようにセンター方式で、市内のどこからでも通うことができる日本語教室は本市の外国人教育にとって、とても重要な位置づけになっています。



「さくら広場」は毎週水曜日に開かれ、放課後に子どもたちが、保護者と一緒に集まってきます。学習の時間を前・後半二つに分けていて、そのうち「母語タイム」は、自分たちの母語に慣れ親しむ時間、「学習タイム」は、日本語や学校の教科の勉強、そして高学年になると国際理解に関わった内容を学んでいます。

年間35回実施される「さくら広場」は、勉強だけでなく、イベントも行っています。例えば七夕には、短冊に願い事を書いて笹に飾り、七夕の歌を歌います。遠足では、みんなで公園に行き、おにごっこや大縄跳びなどをして遊びます。また、学校の調理室を借りて、

中国の保護者の方の協力で、水餃子を作ったり、ハロウィンには、仮装しながら餃子の皮でピザを作ったりして、パーティーをしました。

このような活動を通して、子どもたちは仲良くなり、保護者同士やスタッフとのつながりが強くなってきました。吹田市の特徴として、一つの学校に外国籍の子がたくさんいるわけではないので、同じ境遇の友だちと活動をともにし、安心して自分を出すことのできる、この「さくら広場」は、子どもたちにとって大事な存在になっています。また、同時に保護者の方々にとっても、お互いの子育てに関する情報交換をしながら、母語でおもいきりおしゃべりが楽しめる空間としても大きな存在となっています。



「さくら広場」はただ、日本語を学ぶ場というだけでなく、外国の子どもたち、保護者、そして我々日本人のスタッフたちがつながることのできる大切な場所なのです。
(吹田市教育委員会 荒木大輔)

活動場所: 吹田市竹見台1丁目3番1号

活動日時: 毎週水曜日 午後3時30分～午後5時

参加対象: 吹田市内の幼稚園、小中学校に在籍する帰国もしくは外国人園児児童生徒

問い合わせ: Tel: 06-6155-8229 (午前9時～午後5時30分)

Tabunka Juku(たぶんかじゅく) 第6期生 生徒募集

Tabunka Jukuは外国にルーツをもつ子どものための学習塾です

【場所】大阪市西区新町1丁目12-23 イサオビル4F

地下鉄四つ橋線「本町」駅22・23番出口 徒歩5分「四ツ橋」駅2番出口 徒歩5分

【問い合わせ】 TEL: 06-6586-9477、090-8199-5908(坪内) 両方とも日本語

Email: osakakodomo@gmail.com

NPO 法人おおさかこども多文化センター

3月末までは(特活)多文化共生センター大阪の事業でしたが、4月以降はオコタックの事業になります



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り③ 「グアテマラ、ホンジュラス(3)」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

かわいらしくもせつない気持ちにさせられた女の子たちの住むアティラン湖のほとりの村をあとに、今度は夜行バスに乗りグアテマラの北にあるマヤ最大の神殿遺跡があるティカル遺跡に行きました。

明け方バスが道の途中で止まり、一人の男性が「ティカル、ティカル」と叫びながらバスに入ってきました。私はびっくりして起きました。ティカルに行くにはバスを乗り換えるというのです。なんだか変だなあと思いながらも、言われるままにマイクロバスに乗り換えると1軒のホテルの前に停まり、



ここに宿をとれというのです。部屋を見ると値段の割にはいい部屋だったので、そのまま泊まることにしました。そしてもうすぐティカルへのツアーが出発するのでホテルまで迎えにくるとい言い、おまけにベリーズ・シティーまでのツアーもあると矢継ぎ早に売り込んできます。寝起きだったせいもありますが、そのまま申し込んでしまいました。しかし、あとでよく考えると、なぜあんな中途半端な場所で突然マイクロバスに乗り換えなければならなかったのかわからず、よく聞いてみるとグアテマラ・シティーから乗った夜行バス会社が経営する旅行会社

が、ティカル遺跡への基点となる目的地のフローレスに着く前に客を先取りしたのだとわかりました。寝込みを襲い、何がなんだかかわからないうちに契約させてしまうとは、やりかたが荒っぽくてなんとも嫌な気持ちになりました。

それにつけてもグアテマラの観光業界は競争が激しいのか、観光客をだましてでも客を獲得しようとする業者が多いため油断がならず、何度も腹立たしい経験をしました。長い間いろいろな国を旅しましたが、こんなに疲れる国は初めてでした。

それでも気を取り直してその日の朝6時、迎えのバスに乗りティカル遺跡に行きました。ここはグアテマラ北部ペテン市のジャングルに埋もれるマヤ最大の神殿都市遺跡として知られています。紀元後300年から800年ごろ最も栄えたということで、16平方キロメートルの空間に3000にも及ぶ大小の建造物があります。

あまりの広さと暑さと睡眠不足で、少しふらふらになりながらも、ひとつずつ大きなピラミッドを見て回りました。その中で特に4号ピラミッドは高さが70メートルあり、ここに登ると眼下は一面の緑の海、1号ピラミッドが顔をのぞかせています。風が吹くたびに木々が大きく揺らぎ、まるで緑の海のあちらこちらから温泉が湧きあがってきているようで、このジャングルは、今なおマヤの人々の命が息づいているのではないかと思ってしまうほど、生命力に満ちあふれていました。





『WaiWai！トーク Part2』(大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)

編集部より

1月21日(土)、府立住吉高校で府立外教主催『WaiWai!トーク Part2』が開催され、当日の様子を、東淀川高校教員であり、オコタック会員でもある酒井清夏さんが報告くださいました。

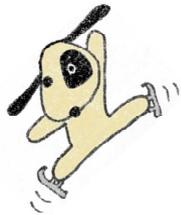
・・・・・・・・・・・・・・・・

東淀川高校は、特別枠入試が始まり1年目です。そこで1年生全員が、校内で母語によるスピーチを行いました。その中から選ばれた3名が今回の本選に出場しました。原稿作りから合わせると約3カ月をかけて練習してきたスピーチ。練習時間が増えるにつれ、スピーチの言葉が本当の自分の想いとなって声になりました。その様子を見ていると、彼らの母語は分からなくても、彼らの想いは十分に伝わってきました。本番では緊張して練習の成果が出せなかった生徒もいましたが、このスピーチを通してどの生徒も一回り大きく成長したように思います。そこで本選に出場した生徒の中から次の2名に参加の感想を聞いてみました。



(大阪府立東淀川高等学校 教員 酒井清夏)

ネパールの生徒の感想より



今回の WaiWai!トーク Part2で、いろいろな人の話を聞くことができました。発表者の思いとか、自分の夢のことなどを伝えられるこの素晴らしい機会に私も参加することができて、とてもうれしく思っています。発表者の多くは、自分が日本に来て困ったことについて話していました。そんな話を通して、いろいろな人の気持ちが分かり、発表者に話しかけたいなあと思いました。

このスピーチがきっかけで他の学校のいろいろな国の人と友達になれました。

私は自分の夢について話しました。自分が将来、建築デザイナーになりたいことを伝えることができました。作文を書く過程で、自分の夢について深く考えることができました。夢のきっかけになった、ネパールの地震について思い出し、涙がでました。過去を振り返ることで、今の自分を見つめることができました。

この話を聞いてくださった審査員や観客のみなさんにとっても感謝しています。そして、自分を特別審査委員賞に選んでくださった審査員の方が語られた、その理由についても感謝の気持ちでいっぱいです。いろいろな人に応援してもらいましたので、夢を叶えるために一生懸命頑張りたいと思います。ありがとうございました。

中国の生徒の感想より

私は校内予選を制して、先生方に選ばれ、今回の WaiWai トークに出ることができ、とてもうれしく思っています。選ばれたときは、とても緊張しました。予選より内容も増え、覚えることが多くなりました。先生方とたくさん練習をして、感情のコントロールもできるようになりました。当日はあまりにも緊張すぎて、会場に来る前にも家で鏡を見ながら一人で練習をしました。



そして、会場についた後も先生と練習しました。待っている間はとても緊張しましたが、いざ舞台の上に立つと練習の成果が出て自分なりの発表ができました。今回の WaiWai トークはとてもいい経験になりました。ありがとうございました。



特別寄稿 『日本語指導の必要な児童生徒の現状(後篇)』

村上自子(オコタック副理事長)

日本語指導が必要な児童生徒のうち、外国籍の子どもが在籍する学校は 7,020 校、日本国籍の子どもが在籍する学校は 3,611 校を数えます。前者に当たる児童生徒の在籍人数を1校当たりで見ると、5人未満の学校が全体の約4分の3を占め、また、後者の場合でも、5人未満の学校が9割を占めています。

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒が在住している市町村数は825で、そのうち「5人未満」の市町村が全体の5割弱を占めました。また、日本国籍の児童生徒が在住する市町村数は 654 で、前回調査より 82 増加しています。日本国内の市町村数は 1,718 なので、約半数の市町村に日本語指導が必要な児童生徒が住んでいることになります。

しかしながら、今回の 2016 年の調査では 43,947 人中で 10,000 人を超える子どもが、日本語がわからないにも関わらず学校内で何ら特別な支援を受けていないという結果がでています。その理由として、日本語指導を行う指導者や指導時間の確保が困難であるということ、在籍学級の指導で対応できると判断されていることがあげられています。

子どもたちにとって学校は、日本社会での学びの場所であり、大切な居場所です。国籍を問わず、どの学校に編入学してきても、言語教育(日本語習得、母語保持)そして、基本的な教育保障がなされなければなりません。複数文化の環境を生きる子どもの人格、学力、アイデンティティの形成のために必要な教育が、等しく受けられるような学校制度の整備が必要です。

外国にルーツをもつ子どもたちの抱えている課題は様々です。滞日期間が長くなるにつれ、子どもたちは日常会話には問題がないようにみえても、教科内容の理解や日本語の読み書きに課題を持つことが少なくありません。

また、母語を忘れた子どもは、日本語が十分でない親とのコミュニケーションが難しくなり、アイデンティティを確立するうえで困難を抱えるという事例も報告されています。

日本語指導の必要な児童生徒数 (在籍数上位5位)

	小・中・高生	外国籍	日本籍
全国	43,947	34,335	9,612
愛知県	9,275	7,277	1,998
神奈川県	5,149	3,947	1,202
東京都	4,017	2,932	1,085
大阪府	3,030	2,275	755
静岡県	3,010	2,673	337

出典: 文部科学省 (2016.5.1現在)

子どもの成長は待てません。喫緊の課題だと思います。複数の言語・文化習慣をもつ子どもたちと、日本人の子どもが、個々の持つ母語、文化、習慣等の違いを認め合い、多様性を受け入れながら、お互いに成長しあうことができる豊かな学校環境が、これからの日本社会に求められています。

すべての子どもは日本社会の宝なのです。



オコタックからのお知らせ

「高校生活オリエンテーション」 (大阪府教育庁主催)

日時： 2018年3月24日(土) 13:00~16:00

場所： 大阪府立今宮工科高等学校

対象者： 平成30年度大阪府立高校に入学する帰国・渡日生徒および保護者

内容： 「学校のルール」「卒業後の進路」「学費」など、日本の高校生活で大切なこととお話しします。卒業生の体験談を聞くこともできます。保護者の方と一緒に参加してください。(通訳あり)

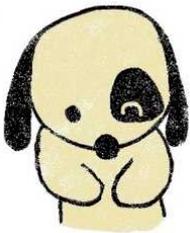


※入学する高校の先生を通じて申し込んでください。

問合せ先： 大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご) Tel 050-3513-1497

大阪府教育庁高等学校課 Tel 06-6491-0351

会員継続 および 新規登録のお願い



おおさか子ども多文化センター(オコタック)は外国にルーツをもつ子どもたちの支援を目的に、大学教員、学校関係者、日本語教師、支援ボランティアなどを中心として2011年に発足し、この2月で7年になりました。この間、みなさまのご協力とご参加のもと、多くの活動をしてまいりました。私たちがかかわっている次の世代を担う子どもたちは必ず、幸せな人生を送るとともに、平和で安全、安心な多文化社会を築いてくれるものと信じています。

さて、本年も会員継続手続きの時期がまいりました。世の中の気象は株価の上昇などで、上向いているとのことですが、どういうわけか、少なくとも私も含め周辺の人々は、その実感を得られていないところが正直な所です。このような状況にもかかわらず、みなさまにご負担をお願いするのは誠に恐縮ではございますが、NPO活動をご支援いただくため、どうぞよろしくお願いいたします。

正会員： 会費 3,000 円/年 (別途入会金 1,000 円) 法人会員： 会費 10,000 円/年

※OKoTaC 通信の郵送(希望者)、メール配信・各種イベントの情報提供、参加費の割引など、

さまざまな特典があります。

賛助会員： 一口 1,000 円/年 (何口でも)

★新規ご入会のお問合せは下記までお願いします。

NPO 法人 おおさか子ども多文化センター 代表 濱名 猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://okotac.org>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼット・ウキウキ))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさか子ども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター)

